

(五) 最後に學習中の態度努力成績の進歩等につきて互に反省し更に第二の學習題材に進む段階を作らしむ。

注意

以上は郊外學習の一例である。題材を大きく採つて連続的研究と有機的綜合的の學習をなさしめ、寫生と圖案と作畫を同一題材から渾一的に取扱ひたいのが其の要點である。要點を把住して居れば必ずしも右の順序でなくともよい否もつと研究し考慮すれば他により以上の學習法もあるかも知れない。又兒童の出方によつて細部はどちらに替つても一向差支はなからう。

従來の學習が藝術的教科としては實際不向の行き方なのだ。兒童の創造力を裏切るばかりでなく學習の順序方法そのものが既に非藝術的であつたのだ。孤立的の多種題材を何んの聯絡もなくポツ／＼断片的に學ばしめたのでは深みのある綜合的の學習は不可能である。

美と謂ふものは頭から教へることは出来ない。大きな題材で連続的に有機的に學習して居る内に直觀と着想と感銘とに據つて自然に體驗されて行かなくてはならぬ。自己の感情を自然觀照に透徹する所に靈感されるのだ。美意識の向上は斯うした學習で初めて奏效すると自分は考へて居る。

題材の範圍に於ける兒童の學習順序竝に方法は出來得る限り各自の自由と平等を與へる。或る兒童は數時間掛つて大作をするものもある。團體の相互學習に差支さへなければ独自の學習は眞に自由を與へる。併し責任觀の伴はない放縱は最後に學習の實收がない。

斯うして毎學期數個の大題目で徹底的の美的學習を遂行して行くのは高學年兒童に最も相應しい審美的學習法だと信じてゐる。

第二節 室内學習の實際

- 一、學年 尋常小學第四學年生
- 二、學習題材 草花類
- 三、學習期間 六月中 四時間 (每週一時間宛四回)
- 四、學習範圍 美しい草花の寫生及圖案化
- 五、學習要旨 美しい草花を各種の方面から描出し圖案化せしめて表現能力及び創造能力を練磨し併せて自然美を翫味せしむ。
- 六、學習用具 クレパス・水彩繪具・色鉛筆・ペン・毛筆。各種の花・壺・布片等
- 七、學習過程の實際
 - (一) 草花類を一ヶ月間學習すべきことを告げ、描寫の内容・順序・方法等を兒童と共に相談する。
 - (二) 兒童を七八人宛の數團に分ち、各分團に用意せる花・壺・布片等と與へて美的に描寫の對象を作らしむ。

- (三) 各分團にて整へたる構成につき兒童と共に批評し任意の場所より寫生せしむ。(第一回)
 - (四) 第一回の成績につき批評せしめ更に構圖せしめて美的に正確に描寫表現をなさしむ。
 - (五) 教師は各生の描寫用具の適否使用法等について輔導する。
 - (六) 第一回の作品と比較せしめて反省せしむ。(第二回)
 - (七) 回を重ねるに従ひ漸次表現を自由に深刻にし、或は精密に或は大膽に或は圖案化に各種の用具を以て盛に描寫する。(第三回)
- 八、學習結果の整理
- (一) 作品の全部を教室に掲げお互に鑑賞する。(第四回)
 - (二) スケールに比べて描寫力を自覺し反省する。
 - (三) 研究過程を自省し描寫の順序方法を再考する。

- (四) 全體に對する學習態度及び作品につき教師に注意する。
- (五) 斯くて一層の興味と努力を以て次の學習題材へと進んで行く。

第三節 自由圖案の實際

- 一、學年 尋常科第六學年
- 二、學習題材 植物を應用したる自由圖案
- 三、學習期間 七月中 六時間 (每週二時間宛三回)
- 四、學習範圍 主として平面圖案(模様化・圍模様・連續模様・各種應用圖案)
- 五、學習要旨 各自採集したる植物を種々の方面より自由に圖案化し、以て圖案的能力を練磨する。
- 六、學習用具 各種の色紙・種々の着色材料・植物資料・應用圖案參考品
- 七、學習過程の實際

- (一) 學習題材につき學習すべき範圍・時間・方法・用具等につきて兒童と相談し、且つ各自に研究方案を立てる。
- (二) 各自立案につき相互批評をなし計畫の正否を判斷する。
- (三) 各自の立案に基き興味と眞剣で學習を始める。
- (四) 資料の採集に行くもの、採集したる資料を寫生するもの、資料を直に圖案化するもの等、各々熱心に學習する。(以上第一回)
- (五) 圖案資料を鑑賞するもの、畫用紙全紙にウインドーバツクを描くもの各種の色紙に數枚の圖案をするもの等、各自の學習形式は多種多様なり。
- (六) (ポスター圖案あり、テーブル掛圖案あり、圍模様あり、連續模様あり、最後の時間に教室に全部作品を展覽して心行くばかり鑑賞と批評をする。

八、學習結果の整理

- (一) 個人別により各自自分の意匠で作品の陳列をなす。
- (二) 陳列法の美醜を批判し美の要素を發見せしむ。
- (三) 學習中の努力、學習效果、作品の美醜につき相互に批評し鑑賞する。
- (四) 参考になるべき傑作を兒童に選拔せしめ更によく味はしむ。
- (五) 一般作品は各自の自己處理に據らしむ。

學習上の注意

自由圖案は從來の如く一定の形式を授けて描畫せしめず。各自の美意識により任意自由に圖案せしむ。従つて一回や二回で、満足すべき作品をすべてに得るは到底不可能である。併し各自の眞剣なる獨創力と、批判と鑑賞により漸次圖案上の美を發見して行くのである。創造的多作主義で自由圖案の學習に衝き込む。一題材を數時間連続して學習するが、其の間に各種の方面よ

り深刻に數多く描寫させる。勿論中には大作の爲に多くの時間を用ふるものもある。要は自由大膽に一切の形式を離れ眞剣的の學習をさせる。

必要に應じ適當と認めれば室外に出る自由も與へる。併しどこまでも眞剣で責任觀を持たしめなくてはならぬ。眞面目な努力的の學習でなくてはならぬ。自由の上に建設した學習訓練が嚴として存しなくては放縱の低級的學習に陥る。放縱に傾き安いのは兒童否人間の弱性である。放縱性を眞の自由に轉換せしむる所に學習があるのだ。

學習を廣義に見て資料の蒐集も作品の展覽批評も描寫以上に眞剣にさせる。茲に従來考へなかつた學習上の價值をも發見することが出来る。教室に正座して耳でのみ教師を迎へる學習は、低級な學習ではないか。

第四節 記憶畫學習の實際

- 一、學年尋常科第二學年
- 二、學習題材 樂しかつた遠足(一時間)
- 三、學習要旨 遠足で最も嬉しかつた事を自由に描寫せしめて、思想の美的表現をなさしむ。
- 四、學習用具 畫用紙・寫生帖・クレヨン・繪具・水墨等
- 五、學習過程の實際

(一) 昨日の遠足は面白かつたね。お天氣はよかつたし。

さあ！もう一度遠足の歌を皆んなで歌ひませう。

斯うして子供の全部は再び遠足氣分になる。手を拍つ。足踏をする。愉快に躍り出す。

(二) 誰れか一番自分で面白かつた事をお話してみないかね。

數人の子供は自分の感想や經驗を述べる。

(三) 今日は遠足で一番面白いと思つた事をお父さんやお母さんによく判るやうに描いて下さい。(兒童は自分の思ふまゝに描かんと意氣込む)

(四) 一同は眼を閉ぢて思想を整へ、手指で空間描寫を初める。(豫め訓練されてゐる)

(五) ハツ切の畫用紙に、大膽にクレヨン(數人は水彩又は水墨)で描き出す。

(六) (兒) 先生、僕は鹿が描きたいのですが、頭の格好を忘れました。(先) さうですか。少し位まづくても自分で描くとよいがね。(兒) でも頭の所が描けないです。(先) 誰れか黑板へかけるものがありますか。(兒) 先生……忽ち無難の示範を子供がする。(兒) あ！あれでよいのか。僕にもかけた。(先) それならなさい。自分でやらなければ値打がありませんよ。

斯うして子供の出問は難なく而かも適當に片付ける。教師は學習の氣

分を作り兒童を督勵し暗示する。

六、學習結果の整理

特殊の作品につき兒童と共に批評し、直に家庭へ持ち歸らしむ。

第五節 自由工作圖の實際

- 一、學年尋常科第五學年
- 二、學習題材 教室内の器具（自由工作圖）
- 三、學習期間 三月中六時間（每週二時間宛三回）
- 四、學習範圍 教室内のチョーク箱・抽出し・硯箱・筆入箱・腰掛・机・教壇・本棚・本箱・標本戸棚等各自任意の圖的描寫
- 五、學習要旨 教室内の各種の器物を圖的に描寫して、製圖の趣味と能力を啓培する。

六、學習用具 尺度（三十センチ尺）三角定規・圓規・畫紙（大小各種）各種の圖法にて描ける參考圖

七、學習過程の實際

- (一) 學習題材の意義及學習期間を與へて、學習の順序方案を相談する。
- (二) 兒童を數團に分ちて團體競争により學習を徹底せしむ。
- (三) 相互研究によりて製圖の方法を考究せしむ。
- (四) 各自の計畫に従ひ自由に製圖を始む。
- (五) 第一回の作品につき兒童と共に批評する。
- (六) 寸法の計り方、（センチ尺）鉛筆の削り方、定規の使用法、縮尺の仕方等は適當に指導する。
- (七) 參考圖を多く掲げて正式の圖法を體得せしめ、方法はすべて各自の發見によらしむ。

(八) 個性により描寫の題目は各自任意に定めしむ。始めより戸棚を全畫紙に引くもの或は硯箱、チヨーク箱を引くもの等進み方と圖の大小方法は自由とす。

八、學習結果の整理

- (一) 全作品は各團體毎に纏めて最後の時間に全部教室に展覽する。
- (二) 團體の成績につきてお互に反省する。
- (三) 描寫の正否、學習努力の多少、圖面の美醜、學習分量等につきて相互に批評し、製圖の趣味を一層深からしむ。
- (四) 各自は批評されたる要點及描寫の年月日を作品の裏面に記し、各自任意に處理せしむ。

第十一章 描寫スケールの實際

第一節 スケールの意義

規範を離れた兒童の自由表現は眞剣な學習と、興味から湧いた努力と技巧の熟練とに依つて意外の進展を見る。兒童は日毎に自己の描寫が圓熟して行くことを衷心から雀躍する。教師は自己の思想で兒童の描寫慾を壓迫した過去を追懐して無言の境に入る。斯うした境地は予の實感の披瀝である。

繪畫にあれ、文字文章にあれ、兒童が自己の思想で描寫したものは自己自ら其の成果を判定するがよい。自ら進歩の道程を體驗して更に第二の學習に努力することが出来る。自由描寫の成績は手本や軌範を標準として判定する

ことが出来ない。茲にスケールの必要が生ずる。

過去の成績判定は教師の無定見な専斷で、兒童の歡心と自暴を買つたに過ぎない。嚴肅なる責任觀を自覺せる自由學習は徹頭徹尾自由と平等を欲する。スケールは各自が懸命に表明した能力を公平に測定する尺度である。

兒童各自はスケールに依つて自己の表現能力を自覺する。自己の描寫をスケールに比較して、自分の學級や學校全體や日本兒童全體に對する描寫位置を判定することが出来る。

第二節 スケールの作成

然らば斯かるスケールは如何にして作るか。茲に圖畫科に於ける描寫スケールの一例として當校で實施したものを記さん。

時は七月二十日第三時限に尋常一年生より女學校四年生まで約七百人の兒

童生徒に同種の花を同時間に寫生させた。寫生用の花は「オランダシヨープ」で大きな寛容の花だ。これを同種の花瓶に格好よく挿して十五の教室に配つた。描寫用具は色畫用紙八ツ切でパステル又はクレパスを用ひ。各兒童は日頃練熟した元氣な伸びくとした筆法で思ひ切り大膽に描いた。時間は四十分、名前や學年はすべて紙の裏に書き、合圖の鐘が響くまでに一人残らず描き終つた。中には二三枚も描いて受持教師を驚かした者もあつた。

斯うした寫生畫は全部一所に集め、學年や氏名を全く混じて全體を三十段に分けた。その分け方は初め全體の作品を上中下の三段に分けた。勿論學年別を全く考へないで、丁度七百人の大きな組のものが描いたと見た。次に各段を更に上中下に分けて九段となし、斯して順次段を増して三十段（十段でも二十段でもよい）。

に作る。次に各段の代表作品を採つて茲に圖畫の描寫スケールは作成される

三十段に分けた理由は、尋常一年から女學校四年までは年齢で云つて丁度十年間に相當する。各年を三段にして中位を學年相當の乙とし、上位を甲、下位を丙、其の學年以上を甲上、學年以下を丁と見るに都合がよいからだ。併し甲乙を判定するは主目的でないのは勿論である。

第三節 スケールの活用

斯うして作つたスケールは、成るべく一と眼で見える所に貼り付けて見ると、學校の描寫能力が判然と知れる。丁度之は一人の兒童が繪を練習し始めてから上達するまでの過程の作品を並べて見ると同じことになる。

どの學級の兒童も自分で精一杯描いた作品をこの描寫スケールに比べて何段に當るか、自分の描寫力が學校全體又は學級から見ても如何なる段階にあるか、判り更に進歩の道程も認められる。斯うして兒童は自ら描寫力を判定し

て行くことが出来る。即ちスケールは兒童が伸びて行く目標となるのである。更に副貳的には考査の標準となることは前に記した方法で明ならん。近頃教師の考査觀が鈍つて來た。自由學習と共に一面教師は善意に考査して兒童の描寫力を向上して行かなくてはならん。考査法については後章に論じて見る。

スケールの資料に點數を書き込んで平均點を出して見るのも教師の參考になる。斯うした事から意外なる結果を見出すことが出来る。下學年が上學年より、よく描けたり、高學年の平均點が低學年のそれよりも低かつたりする事もある。

茲に掲げたのは一例で他に種々なる方法もあらん。花で現はしたスケールは花を描いた時には最も明瞭に比較することが出来る。然し少し慣れてくると、果物でも器物でも、何れも同じスケールに合して見ることが或る程度ま

では出来る。

段々考へて見ると花物と限定しないでスケールを作成した方がよいかも知れぬ。種々の作品を混じてそれで作ったスケールは一般的に活用される。斯う考へると、スケールには教師や他の作品を混じてもよいかも知れぬ。近頃の教育は教師以上の人物を豫想してゐるから。

併し圖案と寫生と記憶畫は學習結果が餘程異なるから、この三方面のスケールは是非欲しい。スケールと云つても普通の物指のやうに絶對的のものではないから時々方法を代へて作つて見なければならぬ。それにしてもスケールは成長するものだ。兒童の學習状態が進むに従つて立派な作品が出来て上へ上へと伸びて行く。現在では誰の作ったスケールとして相對的に考へられてゐる。

自校のスケールと他校のそれと交換して見るのも効果が多い。又數校の成

績品を集めて、或は之を縣下全國と云つたやうに段々押し廣めて作ればスケールも餘程社會的にたしかさを持つてくる。

斯うした方法によつても吾々は日毎に兒童が嬉んで學習して伸びて行く状態を兒童と共に楽しみ、又それによつて學習の方法も漸次眞剣に努力的に進んで行くことを心から希望する。

第十二章 圖畫學習系統案

自由畫が高唱せられてから、圖畫教育上の系統は著しく亂れて來た。亂れたと言ふより從來の系統そのものが兒童の學習上に合致しなくて、系統のためには却つて描寫や鑑賞の能力を拘束した慮があつたのだ。個性の成長や兒童の感銘を裏切るやうな從來の系統は、破壊するのに躊躇してはならぬ。描法も材料も學年を限つて萬人同様に客觀的他律的劃一的に型に嵌めるやうな系統は、系統の爲めの系統で圖畫教育の眞使命を全うする上に手足纏となるだけだ。

個人の進展は教師一人の頭で劃一に規定することは出來ない。子供の能力

はどの位伸びるものか量り知れない。量り知れない所に教育の妙がある。殊に技能の進程は教師一人で勝手に決める譯にはいかない。教師が自己の経験と過去の傳統で立てた自己標準の系統は、教育の効果を淺薄にする。こんな教育法は教師以上の人物を作り出すことは出来ない。

新思潮による圖畫教育は兒童の創造を愛し、各自の美的感情を助長させなくてはならぬ。環境を利用し、自發學習を徹底せしむるには、從來のやうな教師中心の劃一的の系統は容れられない。過去の傳統的系統に盲從して居つては、新主義の圖畫學習は、施せないのだ。系統の爲めに兒童の成長を拘束するやうでは、系統の價値は毛頭ない。過渡期や革命期の圖畫教育を斷行するには、從來の系統に囚はれてゐてはならぬ。場合に依つては、寧ろ系統を無視しても、其の根本を衝き、本質を啓くだけの勇氣と努力とがなくてはならぬ。

	三	尋	二	尋	一
				思想の自由表現 描寫趣味の啓磨 手腕の筋肉練習	學習方法
				表象的描寫 (思想的・觀念的)	迅速大膽の表現
				感興的題材 (生活的・動的)	主要題材
				交通機關・建築物 人物・動物・花草遊 戲・玩具・景色	描寫心理

然らば系統は全く不必要であるか、否系統そのものは決して無用ではない。従來の系統は立案の主旨が悪かつたり、活用を誤まつたりしたから、兒童の表現を束縛したので。

兒童の描寫心理を見ぬいて、個性の進展を助け、圖畫教育全般に對する見通しは、必要且つ有效でなくてはならぬ。

前表は予が現在兒童を教育してゐる實際を表示したもので、系統とまでは言へないかも知れない。然し兒童を中心とした、新思潮の圖畫教育の一端である。

第十三章 圖畫科考查方案

第一節 考查の意義

圖畫教育は兒童をして、美なるものを鑑賞し創作さして美的體驗を深めしむるにあれば、之が根本要素となるべき、描寫能力及び鑑賞能力を査定するのである。

如何なる學科でも考查せんとする對象は、其の教科の學習目的に依らなければならぬ。而して圖畫科に於ける學習目的は、既に第四章で詳論したやうに、兒童の美的感情を陶冶し美を愛する醇真性を啓發して、美の體驗を深める所にある。故に本科に於ては常に美を標的として學習する兒童の能力を測定せなければならぬ。兒童は常に美を愛し、美を味ひ、美を描き、美を批

判する。之が圖畫科に於ける學習の根本的中心作業である。かゝる美を創造する根本要素は、鑑賞能力と表現能力にある。故に各兒童の美的鑑賞能力の向上如何は、本科に於ける學習目的の達成如何による。

以上の見地からすれば、鑑賞能力と描寫力能とは、圖畫科に於ける考查の二標目となるのである。

創造能力の養成は、圖畫科でも大切な事である。勿論これを見逃すことは出来ない。併し鑑賞及び描寫は常に模倣を避けて、創造を唯一とすれば、創造は鑑賞にも描寫にも養はれたり現はれたりするから、考查上では取り離して考へないのみである。

第二節 考查の目標

前項で考へたやうに圖畫科では、鑑賞能力と描寫能力が考查の目標であり

對象となるのである。而して鑑賞能力と云ひ、描寫能力と云ひ、其の内容に如何なる方面が含まれるか更に考察して見よう。

第一項 鑑賞能力

鑑賞能力の現れには、形式美に關する方面と内容美に關する方面とがある。前者の形式美と云ふのは、内容を表現せんとする手段の美醜で、後者の内容美と云ふのは形式によつて表現せられた本質の美醜をいふのである。

自然なり作品なりを鑑賞する時には、材料と形式と内容との三方面に吾々の感情が働く、一枚の繪畫を見ても、其の色彩やデッサンからくる感情は材料美を現し、構圖や組立から來る感情は形式美を起し、その繪の意味内容から來る感情は内容美を現はすのである。併し、茲では形式美の内に材料の美も含めて置く。

一、形式美に關する方面

茲で形式美と云ふのは前にも一寸と云つたやうに内容を表現せんとする材料の配列に對する美の意味である。故に形式美の内に材料も含めて考へるが都合がよくなるのである。

(1) 形狀に對する美的判斷力。

(2) 色彩に關する美的判斷力。

すべての物には色と形とが現はれてゐる。形狀と色彩は美的判斷の對象となるのである。

形式には線美や骨格美や輪廓美が現はれ、色彩からは發色美や明暗美や配色美が生じてくる。

(3) スペースに關する美的判斷力。

スペースは空間關係である。色と形の材料美が如何なる形式で配列されてゐるかによつて、茲に形式美が起る。位置の美、區劃の美、組合せの美はこ

れである。

二、内容美に関する方面

内容美と云ふのは、形式によつて表現せられたる本質の美であつて、鑑賞すべき対象の意味内容からくる美である。

内容美に對しては表現されたる物象の理想化に對する感得の深淺、強弱、正否等が考査の対象となる。

第二項 描寫能力

描寫能力は素材(畫材の意味)を受領する方面と、表現する方面と分けて考へることが出来る。素材の受領には、描寫表現に當りて、兒童が如何に材料を選択して、これをどんな看方や考査をするか、対象となる。更に描寫に當りては、畫面上の位置・大さ・形狀・色彩・明暗・遲速等が考査の対象となるべきである。

今これを簡條にて示せば次のやうである。

(1) 素材に関する受領方面

- (一) 材料選擇の良否。
- (二) 看方及考方の良否正否。

(2) 描寫に関する發表方面

- (一) 位置及び大さの美醜。
- (二) 形狀及び構圖に関する美醜。
- (三) 色彩、明暗に関する美醜。
- (四) 意置考案に関する巧拙。
- (五) 省略(特徴及び氣分の把住)の適否、巧拙。
- (六) 描寫の遲速。
- (七) 用具使用の適否。

第三節 考查の場合

既に考查の目標を定めれば、これを如何なる場合に行ふかを考へなくてはならぬ。教師は日常兒童に接觸するものなれば教室と言はず校庭と言はず、兒童の表現は凡て考查の機會を作るのである。而して教師は常に細心の注意と努力とを以て兒童の圖畫的能力を洞察して、以て彼等を刺戟し向上せしめて行かなくてはならぬ。

されば兒童の日常成績は考查の場合を作るが、更に臨時又は學期末に査定する必要もあるのである。特に技能表現の査定は、描寫前の態度、描寫中の半成品及び寫描後の完成品等につきても行ふがよい

一、日常考查する場合

(1) 寫描前の態度。

(2) 描寫中の半成品。

(3) 描寫後の完成品。

二、臨時に考查する場合

三、學期末に考查する場合

第四節 考查の方法

日常學習中に於ける兒童の描寫竝に描寫表現は、何れも考查の對象として、表示されるけれ共、特に左の方法によつて、各自の能力を一層適確に測定せんとする。

一、鑑賞能力の測定

鑑賞能力 測定は、描畫能力に比べると餘程困難である。従つて如何なる方法によるも、兒童の鑑賞能力を數量的に測定して、斷定を下すことは殆ど

不可能であらう。併し乍ら日常學習中に於ける傾向と、特殊の方法によつて教師はこれを洞察して行くことが出来よう。

(1) 形式美の測定

茲に形式美と謂ふのは、美の材料たる色・線・形等が配列の如何によつて美醜が分れてくる所の配列方法を謂ふのである。

(一) 色彩に關する方面

色彩の配列方法によつて美醜を判定させようとするので、これにも種々方法があらう。今一、二の例を示すと。

數種の配色を示して好惡、美醜を判定せしむる方法。

各種の色紙を與へて、各自に最も良好なる配色を作らしむる方法。

數個の額面を示して繪と臺紙と額縁との調和、美醜を判定せしむる方法。

(二) 形狀に關する方面

線又は面の排列方法によりて、美醜好惡を判定せしむ。

(三) スペースに關する方面

スペース關係の異なる同種の繪畫數枚を示して、構圖の美醜を判定せしむ。

(2) 内容美の測定

茲に内容美と謂ふのは、各種の材料の配列によつて生ずる意味情調を謂ふのである。これにも色々の方法があるが、次に一、二の例を示さう。

各種の繪畫(兒童の繪、教師の繪、名家の作品)を示して、内容の情調につきて各自の美的能力を測定する。

自然美について各兒の感想を發表させる。

二、描寫能力の測定

豫め左記の要領によつて描寫のスケールを作り、これによつて各自の描寫能力を測定するのである。

- (1) 種別 寫生畫、記憶畫、考案畫の三種について、各別にスケールを作ること。
- (2) 範圍 全校兒童をして成るべく同時に描寫せしめて材料を蒐集すること。
- (3) 要件 時間、用紙、用具を豫め一定すること。
- (4) 分類 全部を四十段(十段又は二十段でもよい)に分ち其の代表成績によりて各段のスケールを定む。
- (5) 應用 一段より五段まで(尋常一年生) 六段より十段まで(尋常二年生) 十一段より十五段まで(尋常三年生) 十六段より二十段まで(尋常四年生) 二十一一段より二十五段まで(尋常五年生) 二十六段より三十段まで(尋常六年生) 三十一一段より三十五段まで(高等一年生) 三十六段より四十段まで(高等二年生)

で(高等二年生)

各學年に相當する五段中次の如く定む。

一段以下(丁) 二段(丙) 三段(乙) 四段(甲) 五段以上(甲上)

第五節 結果の利用

- 1、甲上、甲、乙、丙、丁の五段は其の學期に於ける個人の成績として、兒童父兄に通知する。
- 2、各自は自己の成績をスケールに合して自己の能力を自覺し、過去作品に對照しては、進歩向上の跡を究め、かうした自己査定によりて、一層努力的の學習に向はしむ。
- 3、各學級の成績を比較して、學年の成績及び進歩の状態等を査定する材料となす。

4、考査したる結果を參酌して學習題材の適否、排列方法、學習法の形式等の改善に資するのである。

第十四章 圖畫學習の環境整理

教師の中心思想で常に命令し壓迫し束縛して、兒童に描寫を強要した從來の劃一教授では、學校設備が常に靜止的劃一的室内的に畫策せられたのは寧ろ當然でもあらう。併し現今のやうに兒童の自己活動を重んじ自由に美的に個性的表現を作為の中心とする圖畫學習に於ては、設備の要諦を常に兒童的活動的外光的に處して行くことが大切となる。

學習は或る意味に於て自己の環境を支配して、環境から自己を自ら教育して行くのである。環境の美的整理は兒童に描寫や鑑賞の動機と興味と努力を暗示するに強い力がある。して見れば美的の環境整理は圖畫科の學習に於て

今後最も意を用ひて計畫しなければならぬ。併し其の計畫は常に兒童の活動を中心とし兒童と共に實行して行かなくてはならない。蒐集整理の計畫的實行は描寫や鑑賞の豫備的手段ではあるが、それ自身も大切なる學習の一方面たることを忘れてはならぬ。

第一節 學習環境の改造

一、分團的學習より見たる環境

從來の學習は餘りに一齊的 he律的で總ての兒童に強ひて同一の規範を通らせ様と要望したから學習に深みが生じなかつた。同一學級の兒童でも必しも一齊的に同教材の描寫を強要する必要はあるまい。大單元の題材の下に各種の方面から有機的發見的の努力的學習に突進してこそ、眞の學習興味が湧くであらう。

自分の考へでは學年が進み學習態度が訓練されるに従つて、成るべく一ヶ月に一つ位の大きな學習題材で、寫生も圖案も記憶畫も各種の方面から各種の用具で有機的の學習をさして行きたい。

斯うなると茲に分團的學習の形になつてくるのが自然である。各兒童の希望に任して同じ學習題材の下に寫生をするもの圖案を作るもの作畫をなすものと言つた様に各種の方面から自己の長所と興味とによつて徹底的の學習をさしたいのだ。畫面の大きさも用具材料も各自の爲さんとする計畫を遂行させるのだ。

大作の必要を感じても學級全部の兒童に同一時間で實施させようとするから設備上の障碍で實行が出来なくなる。

吾々は繰り返して謂ふ。一齊的の施設に没頭するよりも、自律的學習に應ずる環境整理を痛感する。數枚の大畫板で毎時間數人宛は大作が出来る。之

を交替でやれば、僅の設備で常に其の全部が活用されるのではないか。苦しい經濟で強ひて一齊に設備しても、使用し活用するものは兒童であつて物ではない。殊に描寫資料は同じものを二つ以上設備するのは不經濟極まる。其れだけの費用と手數で形や色の變化した美的資料を豊富に蒐集したい。

どこの學校へ行つても貧弱な經費で同じ器物を七八個宛整へてゐる其の精神は劃一教授の一齊的描寫を雄辯に物語つてゐる。同じものは一個にして類形の美的材料で替へれば從來の費用で六七倍の活用が出来ることとなる。

二、郊外學習より見たる環境

學習場の中心が靜止的の室内から活動的の屋外に移つた。美しい光と澄んだ空氣の流動した大自然に恵まるゝ一切の萬物は圖畫科學習の無二の示範だ大人共の考ふるやうな七面倒の支度はなくとも、兒童は自分の工夫でこれらの境地に順應し得る。

紐をつけたボール紙製の畫板一枚で子供は美しい自然の子となる。始めてゐる内に環境は兒童に種々の工夫を要求する。自己の必要觀から來た一切は凡ての兒童に創造のすべてを與へる。

かうした實證は手工の時間に續々と現はれてくる。愛らしいスケッチ箱、三脚畫架、水筒等子供はあらゆる考案を自分の止むに止まれぬ需要觀から産み出す。茲に教科の統合と自求自作の價値がある。創造の過程は斯くして成長することに考を持ちたい。簡単な設備で油繪を始める。彼等は知らないのかも判らない。併し餘り知り過ぎると知に邪魔されることもあらう。

次は學校園即ち花壇への要求である。教師は兒童と協力して種子を蒔き苗を移し肥料を與へて、自然の成長を享樂するのは、藝術教育上からも極めて價値の多い作業である。斯くして兒童の趣味を純眞にして行くことは、圖畫教育上大切な作業的方面と言はなくてはならぬ。

花壇へ培ふ植物は形と色彩の上から美的で、兒童の描寫慾を引き出す資格があつて欲しい。色の貧弱な細かい資料よりか、豊富な色彩の持主で大きな美しい形の大きなものでありたい。必ずしも西洋花に限らないが、チューリップ、カンナ、ダリヤ、ツリトマ、ドラセナと言つた植物は形も大きく色も強くて、兒童の描寫氣分を引き立てる上に十分であらう。

四季の草花を鉢植にして其の成長を楽しみ、光りと水を與へて朝夕愛翫するも結構である。かうする内に子供の審美性は正しく大きく伸びるものである。

三、室内學習より見たる設備

室内の靜止的學習から郊外の活動的學習に作業場を移すことは効果多い主張である。さりながら室内學習を絶対に無價値としたくはない。自然環境の開放と利用は大切である。しかし時間と場所と天候の制限を受ける。梅雨期

や嚴寒の季節も来る。室内學習には室内學習の長所もあらう。

圖畫の特別教室を美的に整頓して凡ての學習場へ家庭へ社會へ暗示も與へたい。諸種の鑑賞資料を整へて兒童生活の中心にもさせたい。郊外が自然美の所有者なれば、圖畫室は人爲美の所有者であつて欲しい。

室内描寫でも今後は活動的開放的でありたい。戸棚の器物は子供自身が興味に牽かれて隨意に取出されるやうに開放したい。玄關や廊下や階段へも學習室を延長したい。斯うして子供は自分自ら題材の選擇も構圖の練習も、美意識の働くまゝに活動が出来るのではあるまいか。

小さい子供が一時間中堅苦しさに腰をかけて横を向くのも氣兼ねるやうな箱詰式の教育ぶりでは、到底伸びくとした活きた人間は作れない。絶えず腰掛で俯つ向き勝の學習は、衛生の上からも學習の深みからも相應しくもあるまい。

今後の圖畫室はすべて立寫設備でありたい。

光線は變化の少い北光線がよいとせられてゐるが、直接光線にあたる窓際の靜物寫生も強い表現には適當なことも少くない。

窓掛は色合に注意しないと不快と不調和を來たす。室全體から見て調和のよい穩の色相でありたい。大概の場合蝦茶色は適當であらう。

鑑賞用や寫生用のすべては趣味と實用から精選して便利に整頓して置きた
5。

第二節 描寫用具の改造

子供が自然から享ける感銘は決して約束ではない筈だ。眼から受ける自然の印象はもつと如實で赤裸々のものであるまいか。實物をアウトラインや低い調子で描寫する多くの兒童の繪は、材料からくる不備と周圍の模倣が惡

影響を來たすのであらう。先の細い硬い鉛筆では、物象の塊りを強く表すには否如實に見たまゝ感じたまゝを率直に現はすには餘りに材料が不適當ではあるまいか。兒童の眼には物の線状は感じないではないか。すべての物には線はない。物と物との境界を線として強ひて認識さすのではないか。して見ると子供が線で描寫するのは、線を感じてゐるのではなくして周圍から來る模倣と材料の不備だとも思はれる。

描寫表現は物象を塊として見るのが寧ろ自然で都合がよい。部分的に見たり描いたりするより、塊として総合的に見たりする方が必要だ。

材料の不備と模倣の習慣は、かうした所にも兒童の自然觀の表明に障礙を與へるものである。

一、自由描寫に適する材料

圖畫科に於ける描寫材料は、兒童の眼に觸れ心に感じた印象を、自由自在

に赤裸々に表現の出来るものでありたい。材料の不備の爲に表現を拘束されるのは兒童にとつて餘り無慈悲であらう。勿論兒童には自己の手法からくる不自由さもあらう。併し技巧の稚拙から来る制限は熟練と體驗によつて日毎に押しつけてゆく。

自由な材料でこそ如實の表現が可能であり、この間に技巧と熟練とを進めることができる。

斯うした見地から従來の描寫材料は、多く低級であり不自由であつた。自由描寫に適する材料は次の要件を具備して欲しい。

△強く且つ濃く描けるもの

△塊として大きく描けるもの。

△よく溶けて發色の美はしいもの。

して見ると硬い鉛筆よりコンテの方がよい。同じ鉛筆でも軟く濃くつくも

のがよい。クレヨンよりもクレパスやパステルを好み、水彩よりも油繪が自由である。勿論一方に於て精密描寫をする時はペンや鉛筆も必要である。

それにしてもクレヨンは小學生の中學年以下に最も適した材料であらう。削る世話もいらぬし、相當に色を重ねることも出来、塊として強く大きく畫くにも好適である。溶け難いがさ／＼した水彩繪具よりクレヨンの方が兒童の描寫慾を思ひ切り表はすに、とれだけ増しか判らない。尤も特に強く描く時にはクレヨンの下部を持たないと折れる慮がある。

パステルも自由な材料であるから中以上の學年には面白い材料で、殊に高學年の女生には彼等の描寫心理に合致する好材料である。近頃は小學生用のパステルも出来たから高學年兒童には使用さしてよい

水繪具は質を吟味してやらなければ、却つて描寫慾を裏切る。水繪具は溶け易いのと、色の鮮明とが大切である。近頃は和製のチューブ入りで値の割

合に相當色の出るものがあるから、箱入よりか寧ろ都合がよからう。色数は三原色の外に朱・空・白・黒があれば、寫生にも圖案にも先づ差支ない。

木炭は下圖を描くにも大きな調子のデッサンにも利用されることが尠くない。併し木炭で描いた繪は最後に止めなくてはならぬ。これを怠ると自分の繪が臺なしになるばかりでなく他の繪を汚して困る。これを止めるには三匁のシケラツクを一ポンドのアルコールに溶解した液を霧吹でふけば即座にとまる。若し一回で不十分なれば數回吹くのである。パステル畫も必要に応じて同様に定着させる。

次には用紙であるが、一般に従來の川紙は繪が小さ過ぎると紙の與へ方が少い。何も大きさを八ツ切以下と決める必要はない。兒童の希望によつてもつと大作もさしたい。繪でも文章でも大作をして見るのは、何かに大切であると思ふ。低學年の兒童には紙質を落しても澤山與へたいものだ。

今後の學習には着色の紙も利用したい。着色紙にも色々あるが強ひて上等のものに限らない。包紙やラシヤ紙の類で描畫に適したものもある。着色紙は圖案にも寫生にも調子がよく整つて兒童も大變好むやうである。

二、郊外描寫に適する材料

近頃出來た木炭紙のプロツクは郊外寫生に都合がよい。畫板もピンも不要で而も値が普通の畫紙よりズツト安い。描き上げるに従つて上から一枚宛制して行くのだ。

普通の雜記帳を圖畫の學習用として持たしむることは効果が多い。これは畫用紙に代へるのではなく、畫用紙の補にするのだ。低學年では各自の生活上の經驗や日常の印象を常に描寫し、高學年では郊外に行つた時などに圖案の資料を描寫したり、一寸とした動體のスケツチも帳面へ收める。

第三節 學習資料の蒐集

すべての子供には先天的に蒐集本能がある。幼児から男子は蟬取、蜻蛉とり、蝶とりを、女子は、美しい小石や色紙や布片を盛に集める。これは自然に來る子供の蒐集本能であらう。斯かる本能を美的に圖畫心へ導いて行くことは教育上にも有効な學習の一過程である。

斯うした子供の自然性を美しい形と色の方面へ純真に導いて行くことでも知らず識らず子供は美の世界へ活きて行くことが出来る。

美しい鳥の羽根、不思議な貝殻、美事な植物などは、子供の周圍に散在してゐる。是等を子供と共に蒐集し整理して行く其の道程には、言ひ知れない美的學習の過程があることを知らなくてはなるまい。

斯うして蒐集した資料は、子供と共に趣味的の整理をして、寫生や鑑賞や

圖案に利用するならば、學習に一層深い意味が加つてくるのである。

一、鑑賞資料として兒童畫の蒐集

鑑賞の對象は名畫や美術品のみと心得てはなるまい。子供の周圍に實在する自然物象人工物、果ては自分等の身體、自分等の描寫作品、教室、廊下、校庭、花壇、家庭、社會の萬象、少くとも子供の眼に觸るゝ一切のものは鑑賞の對象となる。

美を手近に求めて、これを翫味し亨樂する所に鑑賞は生活化される。かゝる境地に入りてこそ、鑑賞の爲の鑑賞でなく、兒童の爲め生活の爲の鑑賞となるのではないか。

凡ての子供は毎日楽しんで圖畫を描いてゐる。それ等の作品は、多くの兒童と共に鑑賞し批評をする。

かゝる作品中には描寫題材の取り方や手法や用具の上に眞に異彩を放つた

作品が數枚は必ずある。殊に從來の形式と傳統を超越した兒童中心の描寫中には大人が驚くほどの傑作が少くない。これ等の作品は子供と鑑賞批評を行ひつゝ子供から借りて集めると、全校では一ヶ月に百枚位の力作美作が難なく集まる。自分は之を鑑賞資料として、教室や廊下へ絶えず展覽する。子供は是等の多くの傑作から強い而も無難な暗示と刺戟を享ける。かうした兒童の作品には型や癖は極く尠いから、時々は家庭に廻覧したり、學期末に展覽會をする資料にも好適である。

斯うして上學年は下學年の作品から圖案の道行を發見し。低學年は高學年の成績から自分の歩くべき目當も定める。

二、美的自然物象の蒐集

兒童の美的陶冶を中心として學習する本科は、活々した大自然の實相を對象として進むは言ふまでもないが、併し一面に於て子供と共に麗はしい形や

色の自然物象を蒐集整理して、日頃の學習資料に備へることは重要な一方面であらう。

斯うした作業は時間と環境を得て趣味の下に行はなくては効果が顯れない。

鳥の毛。貝殻。植物の莖・花・葉・果實。海草類。
鳥類。昆蟲。魚類。

これ等の資料は金で集めたと云ふより子供と教師の協力で、趣味と熱心の下に行ふのでなくては意義に乏しい。必しも正科時間では謂はないが、廣義の學習過程として行ひたいのである。茲に眞の學習効果が充實してくると思ふ。

三、學習資料としての動體飼育

今後の學習對象として是非取り込みたいのは動體である。子供の作爲對象として活動體は描寫表現が困難だと無條件で押し込んだのは教師の取越苦勞

で餘りに斷念がよすぎはせぬか。多くの子供は平氣で而も嬉んで描き抜いてゐる。動體を相手にしてこそ、始めて觀察も鋭くなるし、眼筋の運動感によつて興味と印象も強くなるし、自然の威力にも魅せらるゝものである。茲に創造も鑑賞も迫つてくる。

愛らしい小鳥や、可愛いゝ兎、面白い鼠、不思議な栗鼠、金魚や、メダカ斯うした興味ある活動體に接して繪筆や筥を働かした作品には、深い子供の共鳴と効果が漲ると思ふ。

四、美的工藝品の蒐集

美と實用とを兼備したものは工藝品である。美的の性質が多くなるに従つて美術品となる。美術品や工藝品の如く人間の頭を通した美的作品は、創意の過程を思索して作造の精神を味ふ。茲に學習資料としての價値があるのだ。圖畫科としては色と形を中心として美的な趣味性の多いものを蒐集しなくて

はならぬ。

織物類……半衿、帛紗、風呂敷、テーブル掛。

食器類……皿、菓子器、井、コーヒー茶碗。

文房具類……筆立、筆入、文箱、インク壺。

装身具類……櫛、襟止、指輪、帶止、首飾。

室内裝飾品……花瓶、寫眞掛、狀差、花器、床飾。

以上は其の一例であるが、郷土に關係した製品を蒐集して、兒童に理解と趣味を與へるも亦大切である。正當の經費を十分要求して設備の完成に留意するの必要だが、又一面兒童の家庭から借りて多くの兒童の眼を肥やすのも一方法だ。

五、印刷物美的資料の蒐集

日常兒童が目撃する諸種の印刷物中には、兒童としての美的鑑賞資料も少

くない。是等は日曜日や休暇中の趣味ある作業として兒童に蒐集せしむるが良法であらう。蒐集した物は一同が圖畫室で更に分類整理する。例へば圖案集なら文字の圖案化植物の圖案化動物の圖案化。同じ文字の圖案化でも平假名、片假名、數字、漢字、アルファベットと言つた様に分類させる。斯うして子供はお互の學習資料を得ると共に自ら美的趣味の學習が出来る。也々の繪や圖案を並べたり貼つたりして體裁よく整理すると、次のやうな集冊が難なく而も面白く出來上る。

表紙圖案集。口繪集。カット集。便化集。挿繪集。廣告圖案集。

第四節 環境の美的整理

一、美的環境整理の必要

兒童は個人としても團體の一員としても、知の世界に住むと俱に美の世界に住む義務と權利がある。

ルソーは其の著エミールの中に「學校教育は主知主義の弊に堪へない、情意生活の陶冶そのものを教育の眼目とせよ」と既に十八世紀に看破してゐる。従來の學校教育が理智的、科學的陶冶に偏重して、凡ての教材を分析的説明的に處理して能事終れりとした。従つて學校は實社會を離れた單なる知識の販賣所と化し、教師は知識の媒介者となつた。斯うして兒童は器械的に操られ、教授は無味乾燥の詰込式の記憶主義に陥り、果ては冷たい熱のない實生活に觸れない没趣味の形式化となつた。

實社會は機械の様な單調生活ではない。より大なる個性と、より豊富な創造性が必須だ。これ等は學校の情意陶冶でなくては教はれまい。眞の情意陶冶は環境支配で充實される筈だ。して見ると學校も家庭も社會も、趣味と便

利を以て美的に環境を作ることに着眼しなくてはなるまい。

美的の環境整理は單なる裝飾ではない。兒童の感覺は之によつて質と量が精練される。趣味を醇雅にし美的情操を陶冶する偉大な効果は、美的の環境整理にある。斯うした美的環境は、兒童の人格陶冶に重大なる交渉を持つことを忘れてはならぬ。

二、環境整理の方法

學校を美的に整理するには常時の場合と臨時の場合がある。校舎、校地、學校園、教室、廊下は常に兒童と共に協力して、便利と趣味で環境整理をする。展覽會や陳列會は臨時の環境整理である。

教室は常に統一した一定の感じを保つやうにして欲しい。光線の亂射や無意味の雜居は、兒童の精神をみだすことが多い。圖畫室に掲ぐる品物は、其の物の用途目的によつて考へたい。藝術的に價值ある作品は絶えず教室に掲

げて鑑賞させる。鑑賞に値する作品は見る度ごとに價值と貴さを増大する。説明的の繪畫は必要に應じて一時的の掲示で事足る。兒童作品の優秀なものは毎週交替に掲示して、獎勵と鑑賞に資するがよい。

田舎の如く周圍が自然美に恵まるゝ所では、これを活用すると共に一面學校の環境に人工美や美術品を多く取込み、又都會の如く人工美に優れてゐる所では自然美で環境を整理する必要がある。

細目とせる 圖畫學習指導の實際 終

大正十五年十月五日初版印刷
大正十五年十月十日初版發行



圖書學習指導の實際 (奥附)

定價金貳圓九拾錢也

著作者 横井 曹一

發行者 東京市京橋區入舟町五丁目壹番地 藤原 惣太郎

印刷者 東京市京橋區南八丁堀三丁目十番地 岩本 菊雄

發行所

東京市京橋區入舟町五丁目壹番地 振替東京一八五一三番

明治圖書株式會社

賣捌所

東京 林六合館 大阪 柳原書店 名古屋 川瀬書店
久留米 菊竹金文堂 佐賀 大坪惇信堂

(製本部……關根・中條製本)

(刷印社會式株刷印榮新)

263.3
1734

終